

目次 はじめに Contents Introduction

1. 森のインタープリターとインタープリテーション

The interpreter and the interpretation in the forest

- (1) インタープリターって何? ————— 1
What is the interpreter?
- (2) インタープリテーションの目的とインタープリターの役割 ——— 2
The goal of the interpretation and the goal of the interpreter
- (3) インタープリテーションの基本ルール
The principles of the interpretation
 - ① 3つのT ————— 6
3Ts
 - ② 3つのU ————— 7
3Us
- (4) 学びのステップ ————— 9
The learning steps
- (5) 参加者を知る ————— 11
Understanding participants
- (6) インタープリテーション・プログラムのながれ ————— 12
The flow of the interpretation program

2. アクティビティ事例集

Activity examples

- (1) アイスブレイク ————— 15
Icebreaking
- (2) 伝える ————— 20
Conveying
- (3) 森を知る ————— 23
Getting to know the forest
- (4) 表現する ————— 29
Expressing
- (5) プロジェクトワイルド ————— 32
Project wild

3. プログラムをつくろう

Creating own programs

- (1) 「ノン・パーソナル」 ————— 37
Non-personal programs
- (2) 「パーソナル・プログラム」 ————— 41
Personal programs

おわりに

Acknowledgement

はじめに

NPO 法人 里山を考える会は、福岡県北九州市八幡東区東田を拠点として活動する NPO 団体です。NPO 法人 里山を考える会では「持続可能なライフスタイルを里山的暮らしのデザインで！」をコンセプトに、都市や田舎に関わらず、環境や社会に負荷をかけず、自然の回復力をこえない暮らしのあり方を考え、実践し、持続可能なライフスタイルを目指したまちづくりを行っています。私たち里山を考える会は、ネイチャーガイド、エコツアー、まちづくりなど様々な施設で環境活動を行っています。そんな活動を行っているのが「インタープリター」と呼ばれる環境教育者です。

私たちの活動拠点の1つである北九州市の市街地に隣接する山田緑地では、自然のおもしろさや不思議を来訪者に伝える「森のインタープリター」が森を案内しています。30世紀の森づくりを掲げる山田緑地は、かつて旧日本陸軍の爆薬庫として使用され、第2次世界大戦後に米軍に利用されてから昭和47年(1972年)に返還されるまで約半世紀にわたり一般の人々の立ち入りが制限されていました。そのため豊かな緑が残され、多くの生物が住みついています。そんな自然環境を未来へ残していく為に、自然の価値や魅力を人々に伝えることが山田緑地のインタープリターの使命です。

その自然環境を守るために1人でも多くの人々に自然環境の魅力を伝え、持続可能な森づくりをする為に、NPO 法人 里山を考える会では、自然環境教育の第一人者である小林毅氏をお招きし、2006年より「森の楽校(がっこう)」と呼ばれる、自然系インタープリテーション研修を開催しています。この研修では、自然の中でのプログラム体験から始まり、基礎講座をつうじてインタープリターとして自ら計画を立て、プログラムを実施するまでの流れを学び、総合的な「伝える」能力の向上を目指しています。

山田緑地での自然系インタープリテーション研修の手引書として8年間の成果をこの冊子にまとめました。この冊子が1人でも多くの環境教育に関わる方々やガイドとして活躍している方々に、更なるスキルアップとして、読んでいただき未来のインタープリターづくりのお役に立てれば幸いです。

NPO 法人 里山を考える会

Introduction

NPO SATOYAMA is a Non Profit Organization located in the city of Kitakyushu, Fukuoka prefecture. Our mission is to create sustainable life style in both urban and rural areas by applying the theory of "Satoyama" (permaculture), which utilizes traditional knowledge along with ecosystem. Our projects are in wide range of fields such as eco-tourism, operation for the environmental museum, community development and nature guide. The interpreters as environmental educators have lead these projects.

NPO SATOYAMA have organized "the interpretation training course" since 2006 at the forest called Yamada Green Zone and Park that is only 10 minutes drive from downtown of Kitakyushu city. The forest has remained largely untouched over several decades because it had been utilized as a munitions bunker for US and Japanese militaries. This untouched forest was opened to the public in 1972. Based on this environment, it is considered that the interpreters play an important role in preserving the forest and helping to provide a channel for the city residents to feel closer to nature. We expect these interpreters to convey the attraction and importance of nature through various activities to provide explanations and environmental education regarding nature.

Through this training course, the skills of planning and implementation for the interpretation are developed as well as comprehensive communication skills. We compiled the 8 years experiences and knowledge from the training course, which has facilitated by an instructor Takeshi Kobayashi, into the booklet.

NPO SATOYAMA

NPO 法人 里山を考える会 NPO SATOYAMA www.Satoyama.cn

山田緑地 Yamada Green Zone and Park www.Yamada-park.com